

講演会参加記〔講師：中島広喜氏（横須賀市自然・人文博物館学芸員）〕

「博物館標本が語る過去の水辺環境」を拝聴して

(株)オカムラ 追浜事業所

環境設備担当 山下良明

令和7年度講演会は、令和8年3月6日(金)15時からヴェルクよこすかに於いて、21名の参加者を得て開催されました。

中島講師は、群馬県出身で、2025年4月より、横須賀市自然・人文博物館の学芸員として勤務されています。講演会では、永年の海洋研究に触れながら、特に「シャコ」類の研究と新種発見を中心に熱っぽく語られ、参加者の目も耳も引き付ける貴重な講演会となりました。



～熱心に語りかける中島講師～

「シャコの種類は500種も！」

生き物を見分けることができる分類学は基盤的で重要な学問であることを始まりとしてシャコだけでも17科500種あることを学び、世界には発見されていない生物がまだまだいるのだと思いました。(ちなみダンゴムシは約1万種あるそうです…世界は広いですね。)



～講師を紹介する事務局～

「過去を知ることができる博物館標本」

生物学者の仕事の一つとして生物を捕まえて研究し標本を作るという仕事があるそうです。標本はどこにどんな生物がいたかを知る貴重な手がかりであることを学びました。作成した標本は博物館に寄贈し大切に保存されているそうです。標本を通じて過去の生物情報や誰がいつどこで採取した生物かを知ることができるという点はロマンがあるなぁと思いました。

「干潟にもシャコ！に親近感」

サンゴ礁の海は様々な生物や綺麗な風景を見ることができ魅力的だと思っていましたが今回の講演を通じて干潟にもベントス(底生生物)やシャコが住んでおり魅力があると感じました。シャコは海水ろ過食を通じ海水をろ過・分解・栄養付加をしているそうです。

排水処理設備の管理業務をしている筆者もシャコに親近感を覚えました。暖かくなったらヤビーポンプを購入し干潟で生物観測を試みたいと思います。